

「有資格者傷害調査アンケートの調査報告」

SAJ ドクターパトロール（生田病院 整形外科）田久保興徳

平成26年10月から滋賀県スキー連盟教育部の有資格者に対して行っている傷害調査を、引き続き調査したので報告する。

傷害調査は教育部にご協力をお願いし、指導員資格を維持している正・準指導員562名に対して、平成28年10月から郵送によるアンケートを行った。有効回答は正・準指導員合わせて311名で、有効回答率は55.3%であった。

これらを平成26年度～平成28年度の3年間にスキーによる傷害歴のある39例を抽出し、詳しい検討を行った。その解析結果を、平成29年3月14日に、キロスキーリゾートで開催された日本スキー学会第27回大会で報告した。

受傷者の傷病名、受傷部位、受傷状況はこれまでの調査と同様で、「比較的天候・視界が良く、混雑は無いが、やや雪面状態が悪い一般ゲレンデを滑走中に自己転倒し、受傷する」状況が多く、「雪面以外の条件の良い時に限界に近いチャレンジな滑走をしていて受傷する」パターンが推測された。また、受傷部位は膝の損傷が多く、（全傷害の27.1%）、とくに前十字靭帯損傷は、スキー復帰のためには手術を必要とし、この3年間で認められた4例（膝の受傷の30.8%）も全て手術を行い、復帰を目指していた。今回の検討で前十字靭帯損傷は女性に多く（本調査で75%）、すでに復帰した3例も復帰まで平均7.3ヵ月を要しており、復帰に時間がかかるため、傷害予防や復帰に向けてのサポートなどに取り組む必要があるのではないかと考えた。